

a 学校教育目標	学びあい、思いあい、高めあいのできる児童の育成「三愛」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命)自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像)地域から信頼され、自校に誇りを持てる学校
----------	-----------------------------	----------------------	---

評価計画				自己評価					改善方策		学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	9月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の向上	確かな学力を身に付けた児童の育成	◎主体的・対話的な深い学びへつながる授業づくりを通じた、自ら考え学びあい、表現する力と活用力の育成	○算数科を中心とした授業改善 ①目指す子どもの姿、資質・能力(「知識・情報活用能力」「やりぬく力(主体性)」「自らへの自信」)を意識した授業 ②ポートフォリオの活用 ③数学的な見方・考え方を明確にした授業づくり ④標準学力調査結果の分析と活用	①教師自己評価アンケート(肯定的評価をした教師の割合) ②資質・能力に関する算数科ポートフォリオにおける肯定的評価をした児童の割合 ③算数科単元末テスト「思考力」の平均点 ④標準学力調査の通過率(全国平均+2P)(標準スコア全国=50)	①90% ②90% ③80点 ④100%	①65% ②92% ③80点 ④	①88% ②92% ③80点 ④標準スコア54.2(+4.2P)	①97% ②102% ③100% ④108%	B ①「目指す子どもの姿を意識した授業を行っている」100%⇒子供の姿で指導案を書き、全員授業研等をする中で、全教職員が意識して授業をすることができた。「資質・能力を授業の中で子ども達に意識させている」75%⇒4月からは+31%で向上してきているが、まだ目標値には達していない。 ②全体では目標値を達成した。(4月76%より大きく向上)⇒年間を通して継続した振り返り(ポートフォリオの活用)をすることで、児童自らが資質・能力を意識してきた。 主体性「やりぬく力」98%⇒自力解決場面で自ら問題に向き合い取り組むことができるようになってきた。「伝える力」89%⇒目標値には達成できなかった。 ③単元末テスト「思考力」⇒目標値は達成できた。「標準学力調査の活用」全国+11⇒教師が、授業の中で価値づけたい数学的な見方・考え方を意識した授業を行ったり、「標準学力調査」で児童がまずまず「思考力」を問う問題を授業の中で取り扱ったりした成果の表れだと考える。 ④全国平均より+4.2ポイント上回ることができ、さらに4つの学年で市平均も上回った。しかし、学年差・個人差がある。	①資質・能力を見直した上で、以下の点を全教職員が意識する。 ・授業を考える際に、授業場面での具体的な目指す子どもの姿を意識 ・資質・能力カードの活用 ・具体の場面で意識づけさせる言葉がけ ② ・ベアトーク・グループトーク等友達に伝える場を意識して設ける。 ・学び合いの場での話し合いの視点を示していく。 ③ ・価値づけたい数学的な見方・考え方を意識する。 ・習熟の場を設ける。 ④結果の分析を学年ごとに行い課題を明らかにし、課題は年度中に克服できるようにする。 ・チャレンジタイムの時間などを活用し、個別の指導を徹底していく。 ・誤答が多かった問題は、解き直しをさせる。 ・課題の児童の多かったクラスには、複数体制で指導していく。	○	○	○	・「子どもの姿で指導案を書く」とあり、改善方針にも「子どもの姿を意識」とある。教師が意識したこと実態とのズレを把握し、どの視点に欠陥があったのかを認識しなければならぬ。何を改善しなければならぬのか明確にさせて今後の取組を進めるべきである。 ・ポートフォリオの活用方法が伝わらなかった。児童の資質能力育成のために今後も有効活用してほしい。 ・数値の見方が難しい。より焦点化した数値を見取る等の評価を行うとよい。 ・学年によって定着の差が見られる。目標達成できていない学年については、原因分析を行い、その学年が終了するまでに、定着させておく必要がある。
豊かな心の育成	潤いと落ち着いたある児童の育成	◎生徒指導の充実による、目標に向けて本気で挑戦し、粘り強くやりぬく児童の育成及び、自分も相手も大切に、ともに伸びようとする児童の育成	①目標をもって取り組み、最後までやりぬくことのできる集団づくり ・学校行事・児童会行事を活用した目標・手立ての設定と振り返り ・本気のがんばりを認める場の設定 ②異学年との交流や児童会の活動を通して、互いに高め合う意識の構築 ・縦割り班活動の導入 ・児童会活動とリンクさせた生活目標の設定「あいさつ」「掃除」「きまりを守る」実践	①行事の振り返りで肯定的評価をした児童の割合 ・「自分や仲間のために、最後までやり抜くことができた」 ②児童会の月目標や無言掃除の振り返りで肯定的評価をした児童の割合 ・「自ら進んであいさつ」「無言掃除」「きまりを守る」	前期 ①②85% ↓ 後期 ①②90%	①91% ②89%	①95% ②94%	①105% ②104%	A ①について肯定的評価をした児童の割合95%(運動会91%、学習発表会98%、なわとび大会97%) この結果から、一人一人が目標を意識し、最後まで粘り強く取り組む力が向上してきている。 ②について肯定的評価をした児童の割合(あいさつ95%、掃除93%、きまり96%) この結果から、児童会の月目標を意識して生活している児童が多い。また、今年度から縦割り班活動を取り入れたことで、無言掃除だけでなく、互いに高め合う意識が高まっている。 しかし、①②に共通して、一部の児童が達成できていないことが課題である。	①今後も各クラスでの意見を基に、児童会本部役員を中心として取り組むことで、児童主体となる行事を目指す。 ②今後も児童会活動や縦割り班活動の充実を図ることで、高学年は自覚と責任をもち、低学年は高学年への憧れをもてるようにする。 ①②に共通して、一部の児童の自己肯定感が高まるように、価値づける言葉がけを行う。	○	○	○	・振り返りを大切にしているのので、一人一人が目標を意識し、最後まで取り組む力がついている。 ・縦割り班活動は、異学年交流において効果的である。 ・「児童一人一人の思いを…」とあるが、教師の目の届いていなかったことについてもう一度確認し今後の実践に生かしてほしい。 ・自己評価と改善方針にズレが一部見られるので確認し今後の取組を検討してほしい。
健やかな体の育成	健康を考える児童の育成	○基礎体力の向上による、高めあい、粘り強く最後までやり抜く児童の育成 ○食育の推進と歯磨き指導	①体育の時間や休み時間での体力向上を目指した取組の推進 ・体育の授業の工夫(走の運動の推進) ・外遊びの奨励と朝マラソン ②日常的な歯みがき指導の実施	①走力テスト(シャトルラン)において、前回比で向上した児童の割合 ↓ ①50m走において、前回比で向上した児童の割合 ②生活アンケートにおいて、肯定的評価をした児童の割合	①②80% ↓ ①②90%	①90% ②92%	①74% ②95%	①82% ②105%	B ①について前回比で向上した児童の割合74% この結果から、目標値である90%には達することができなかった。これは、短距離走の走り方が身につけていないこと、瞬発力が十分に身につけていないことが原因であることが考えられる。 ②について生活アンケートにおいて、肯定的評価をした児童の割合95% この結果から、日常的に歯磨きをしている児童が多い。しかし、1日3回、歯磨きができない児童もいる。	①今後も取組を継続するとともに、新たにサーキットトレーニングを行うことで、瞬発力の向上を図る。 ②今後も取組を継続するとともに、個に応じて声かけを行ったり、懇談会等での機を逃さず、家庭との連携を図ったりすることで、歯磨きの習慣を身に付けることができるようにする。	○	○	○	・歯磨きができない児童は大体同じ児童である。どこに課題があるのか(時間設定・家庭等)を把握して今後も取組をする必要がある。 ・「歯磨きができた」という目標ではなく歯磨きをする習慣を身につける指標としたほうが良い。 ・歯磨きの回数は児童の生活の実態に応じて見直すべきである。
信頼される学校	保護者・地域から信頼される学校づくりと自律的な経営	○保護者・地域との積極的な連携と情報公開 ○教職員が健康でやりがいをもって勤務できる環境づくり	①機をとらえた情報公開 各種通信の発行とホームページのアップ ②対話の充実 保護者、地域、関係機関との連携 ③積極的な働き方改革 ・定時退校日の実施 ・業務改善のための熟議・改善	①月1回以上の学年通信発行とホームページのアップ ②保護者アンケートの肯定的評価の割合 ③定時退校実施率	①100% ②90% ③90%	①100% ②94% ③76%	①100% ②92% ③73%	①100% ②102% ③81%	A ①1月までの学年通信の発行枚数の平均は15枚であった。また、学校だよりは26号発行できた。この結果から、月1回以上の発行ができており、また、ホームページのアップも定期的実施できていた。つまり、機をとらえた情報公開ができてきている。 ②保護者アンケートの肯定的評価の割合は92%であった。この結果から、学校は保護者や地域との積極的な連携・情報公開が推進できていると考えられる。その反面「何かあった時の連携に不安がある」「担任によって違う」といった意見も見られた。 ③毎週木曜日に「サクサクサズデー」の呼びかけを行い、実施することはできた。しかし、業務が終わらず、目標時刻の18:00を過ぎてから学校を出る教員もいる。	①今後も「三愛」の姿を全員で目指し、子どものよさや成長を積極的に伝えることで、保護者から信頼される学校を目指す。 ②今回のアンケートで分かった保護者の不安は、生徒指導上の問題については組織として迅速に対応し、保護者との連携を密に取ることで、その不安を解消していく。また、生徒指導委員会や研修を定期的に行うことで職員の意識向上を図る。 ③業務改善に向けては、組織としての新たな取り組みを行うことで、教職員一人一人の負担を分散し、勤務時間内に収まる仕事量となるように努力していく必要がある。	○	○	○	・健康維持できる範囲で様々な取組を検討してほしい。 ・教職員が「勤務時間は遅くなるのが当たり前」という意識を持たないように取り組んでほしい。 ・電話連絡の時間について、検討したのは良い。留守番電話も効果的である。保護者の意識も変えていかなければならない。

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j: 自己評価 評価】  
A: 100% (目標達成) B: 80% (ほぼ達成) < 100  
C: 60% (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60  
【l: 学校関係者評価 評価】  
イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。  
ハ: 分からない。